

# 朝霞市の 年齢別人口の推移と課題 (2010国政調査修正)

2013. 4. 15

朝霞市議会議員

黒川 滋

# 出典と注意

過去

国政調査昭和40年から平成22年まで

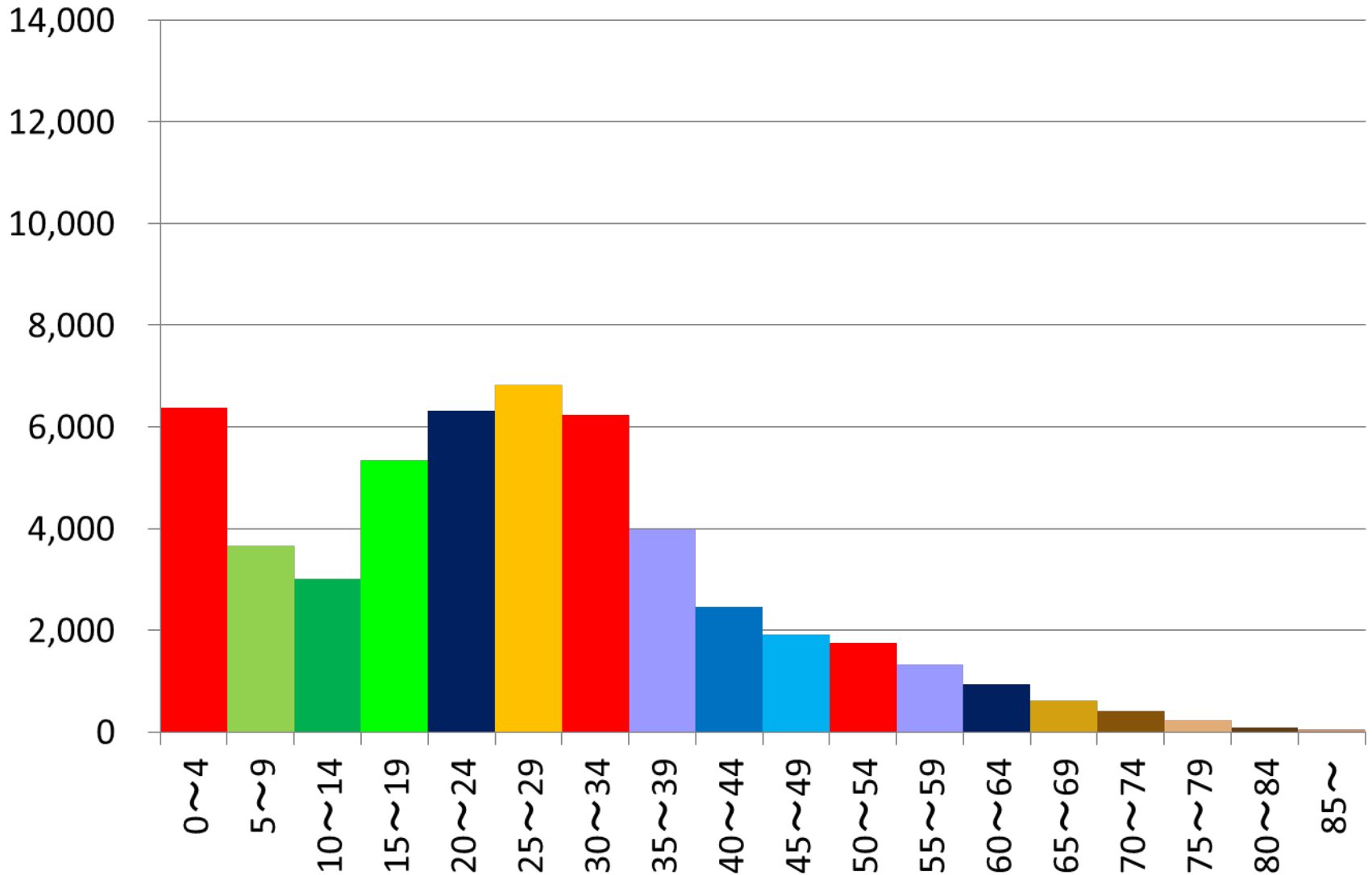
未来

国立社会保障・人口問題研究所

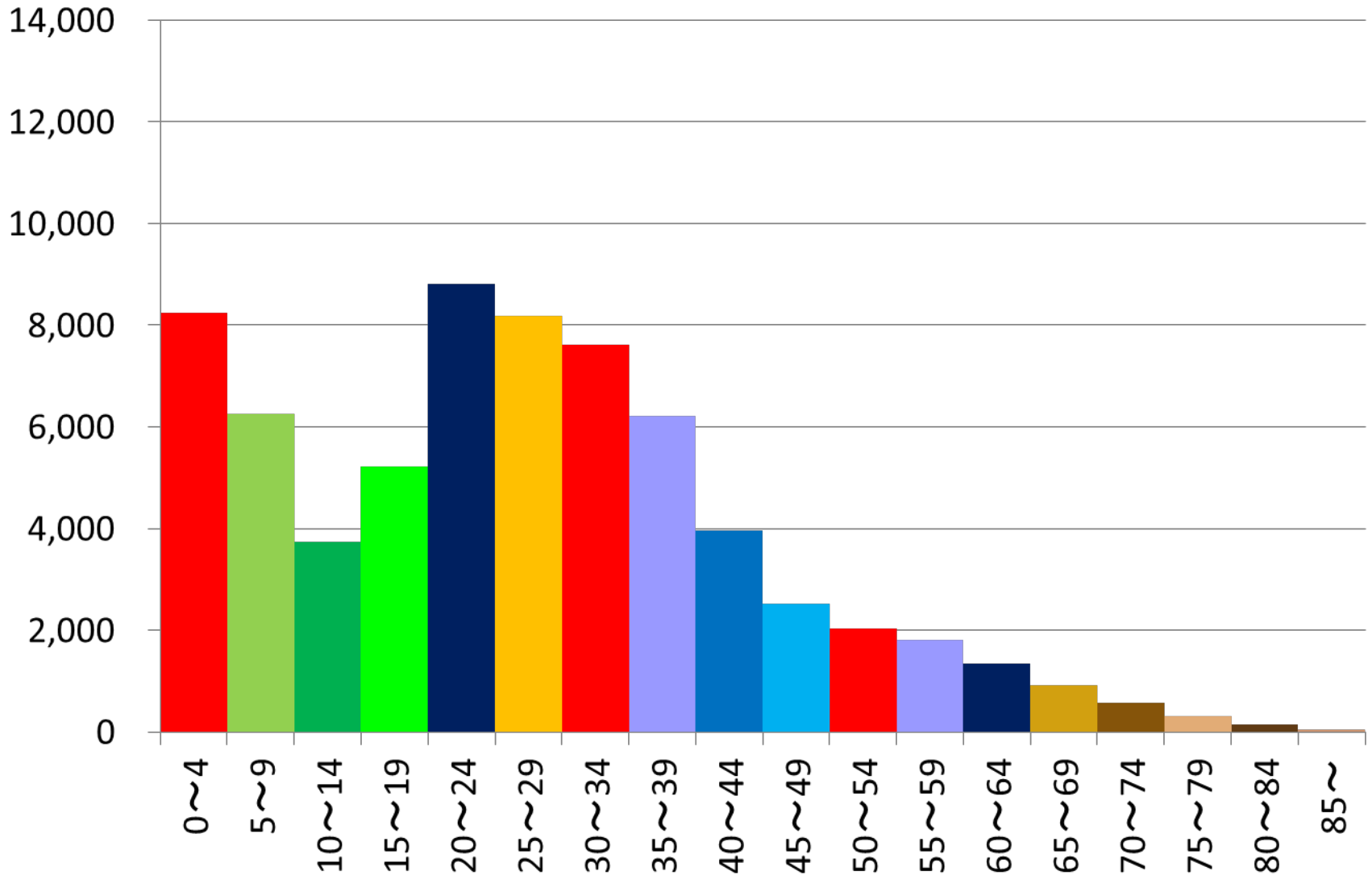
「日本の市区町村別将来推計人口」

平成25年推計発表

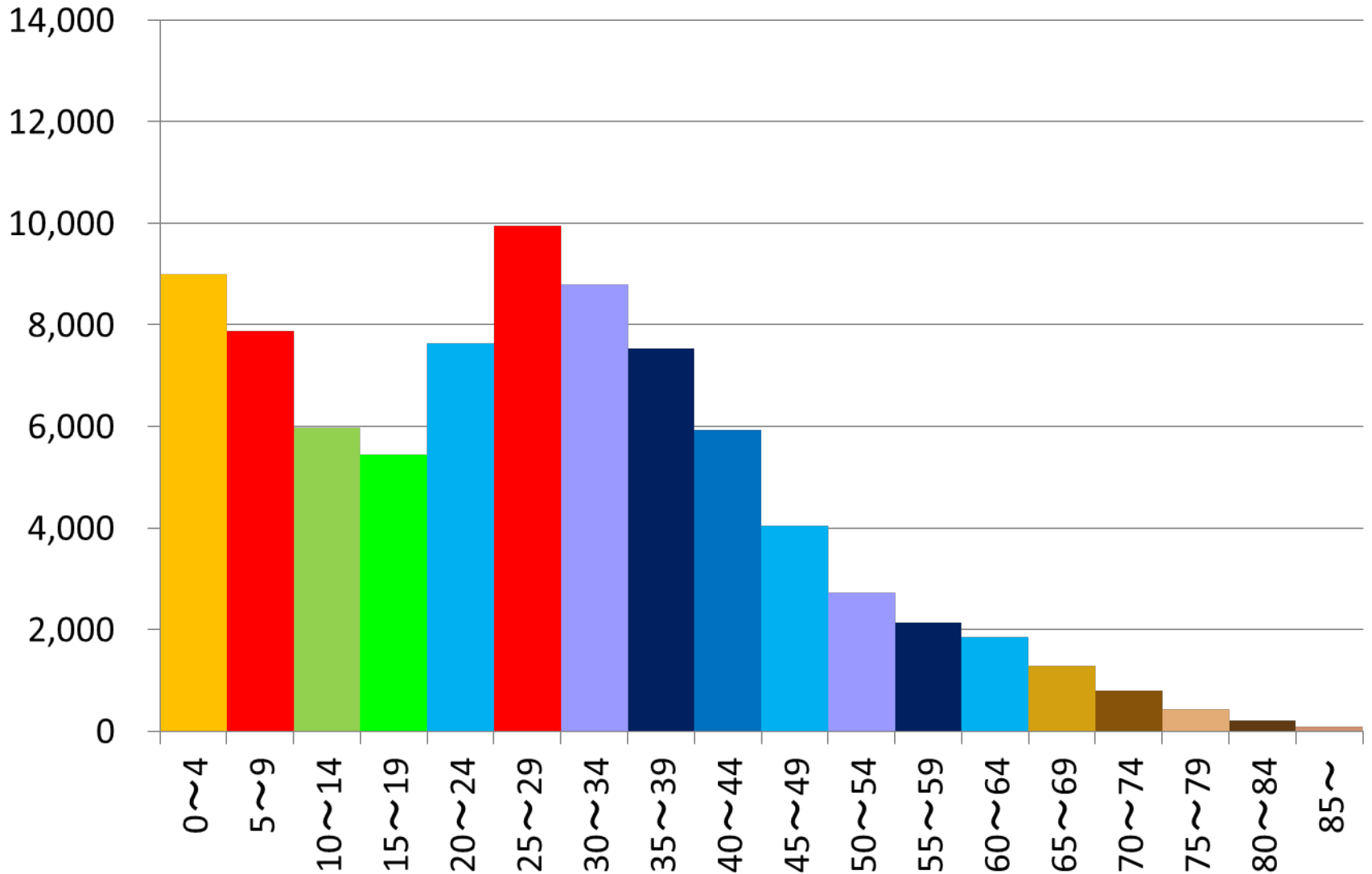
# 1965年 昭和40年



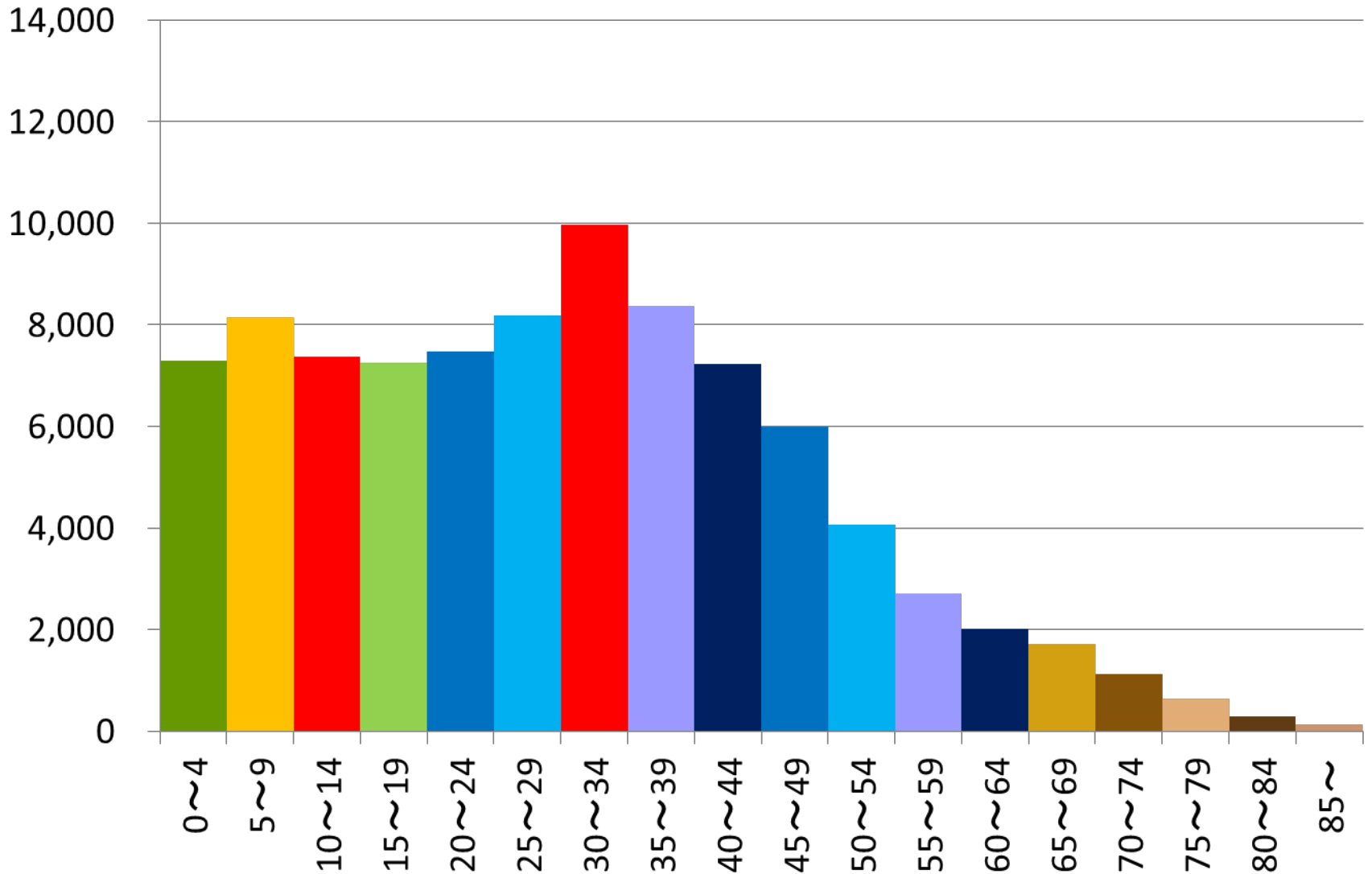
# 1970年 昭和45年



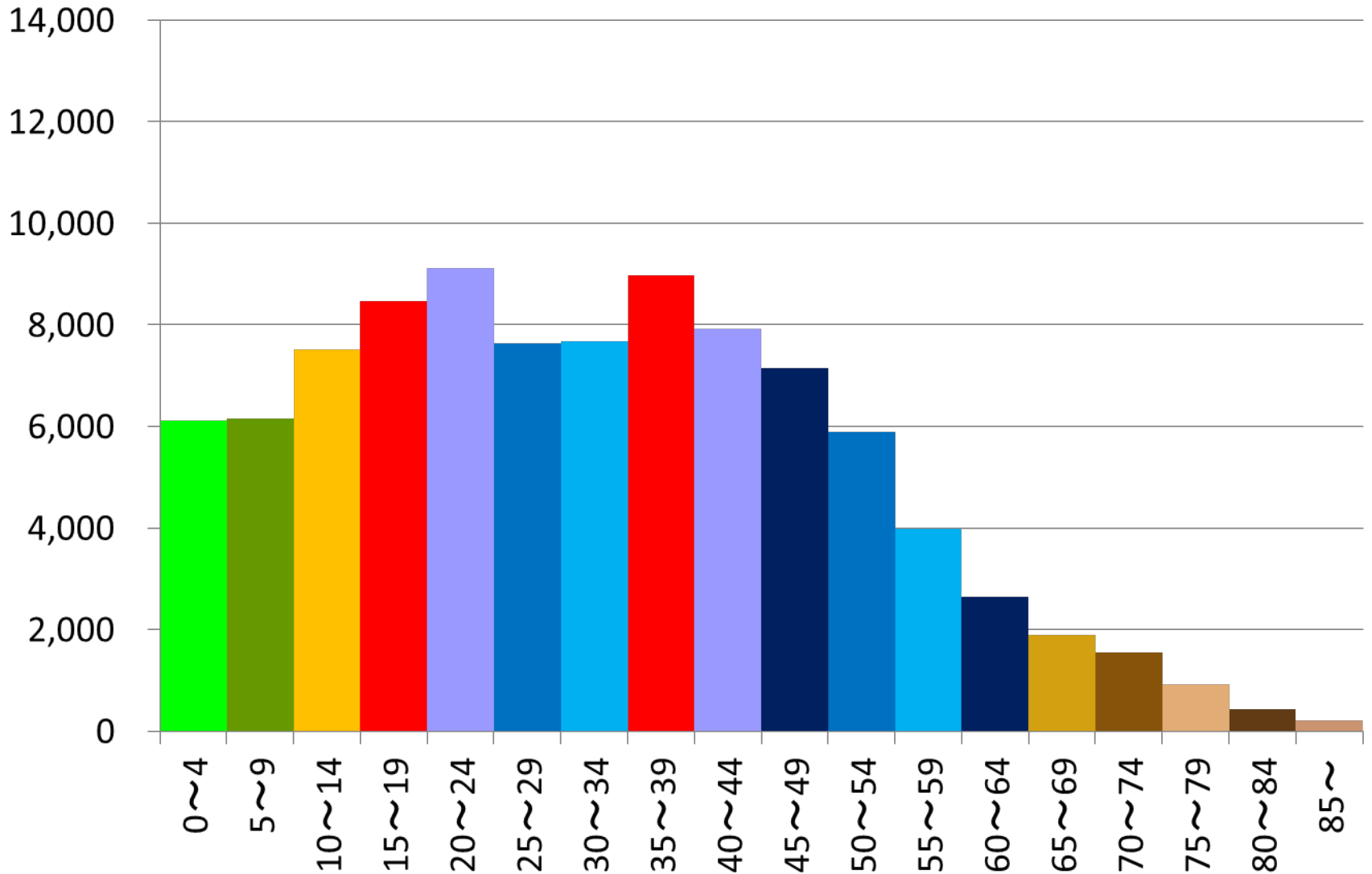
# 1975年 昭和50年



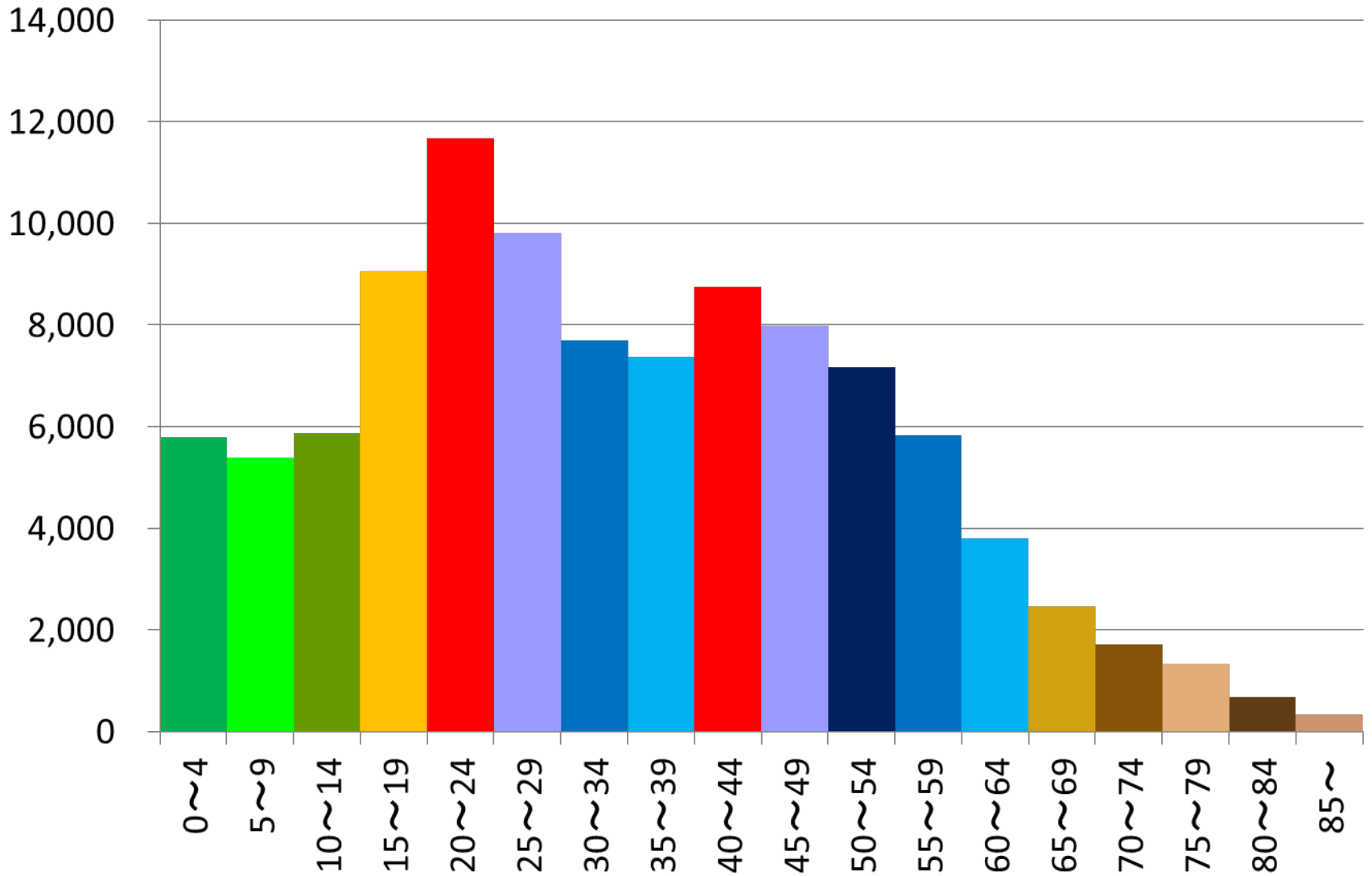
# 1980年 昭和55年



# 1985年 昭和60年

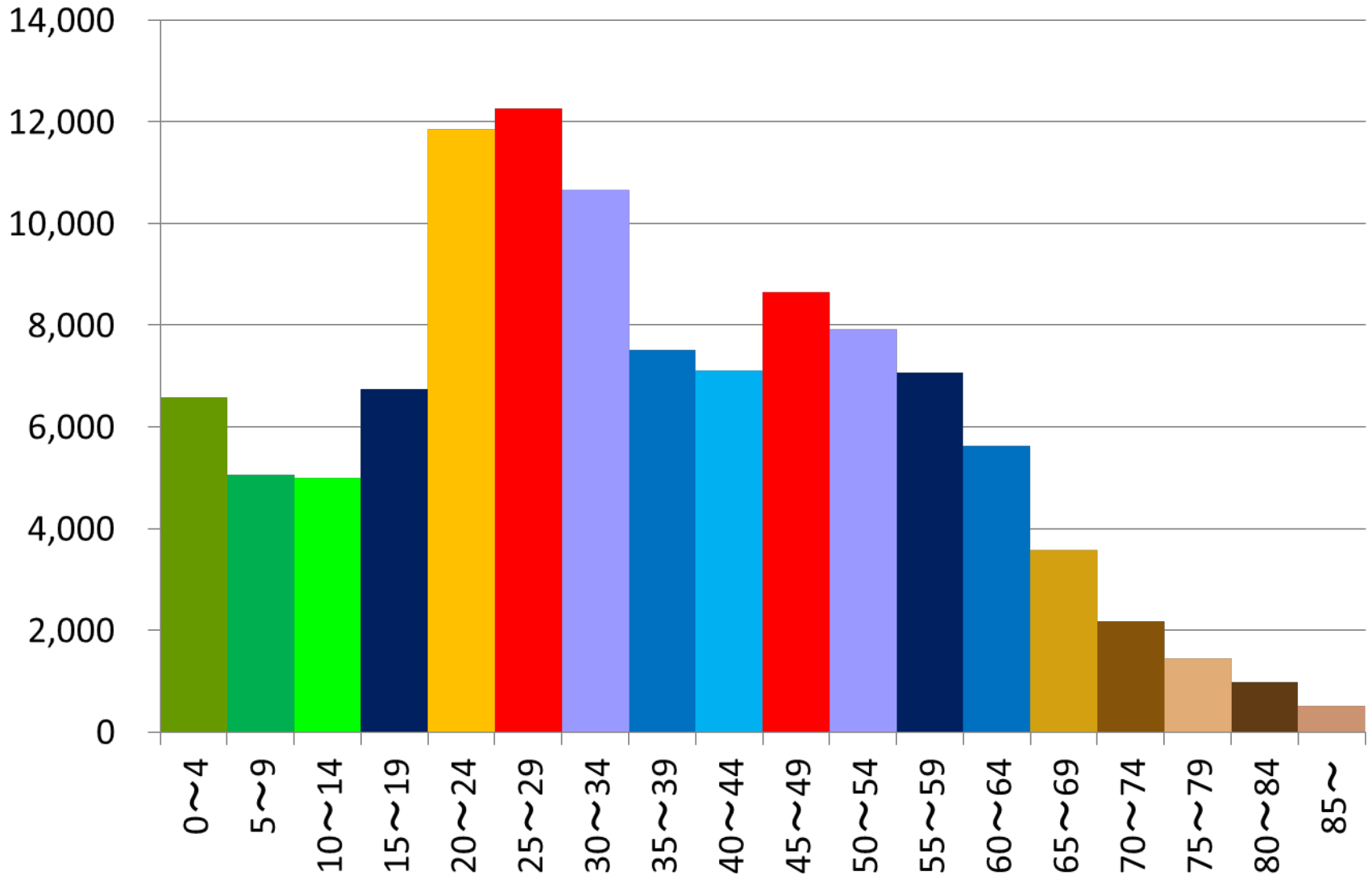


# 1990年 平成2年

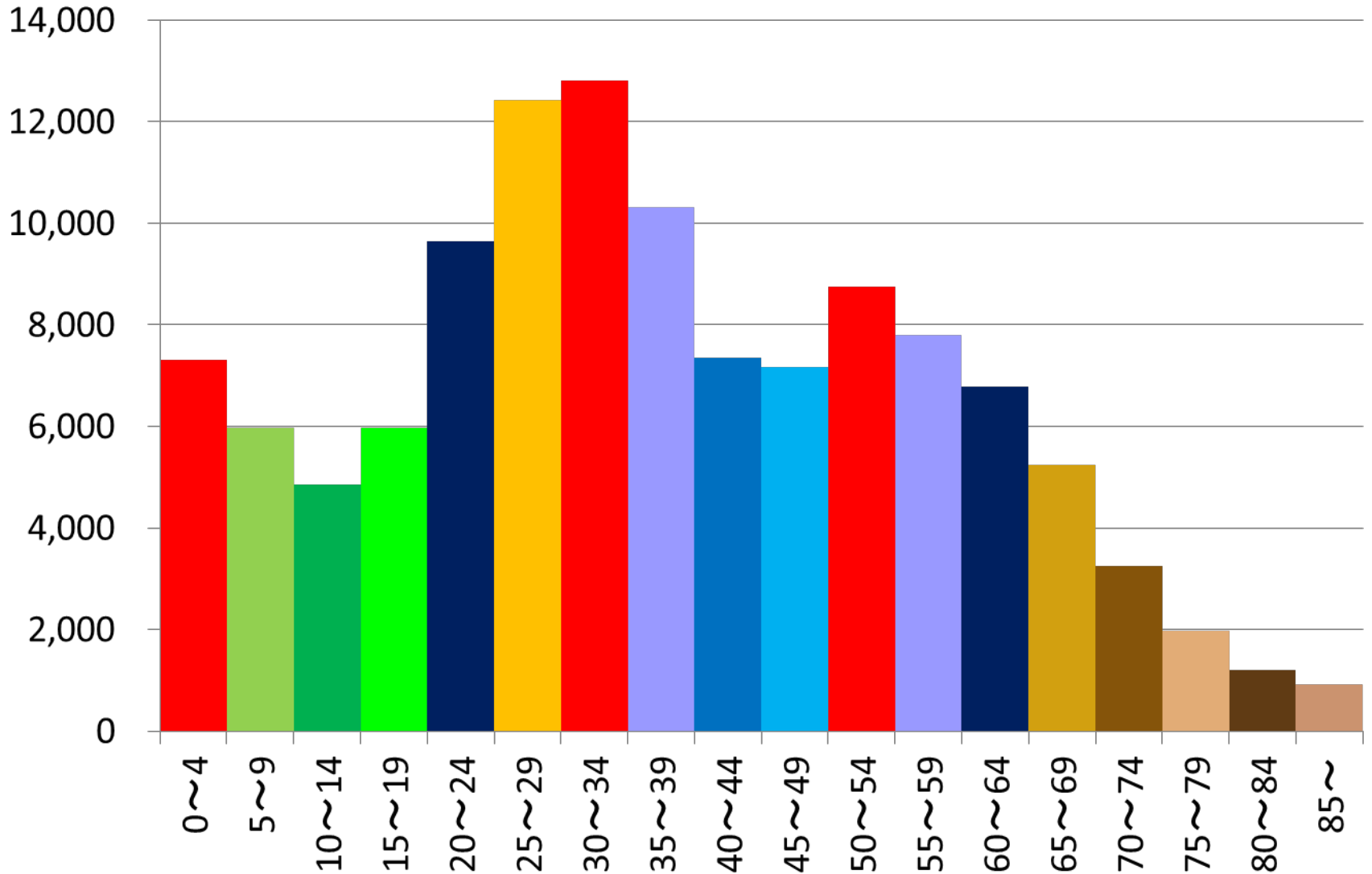




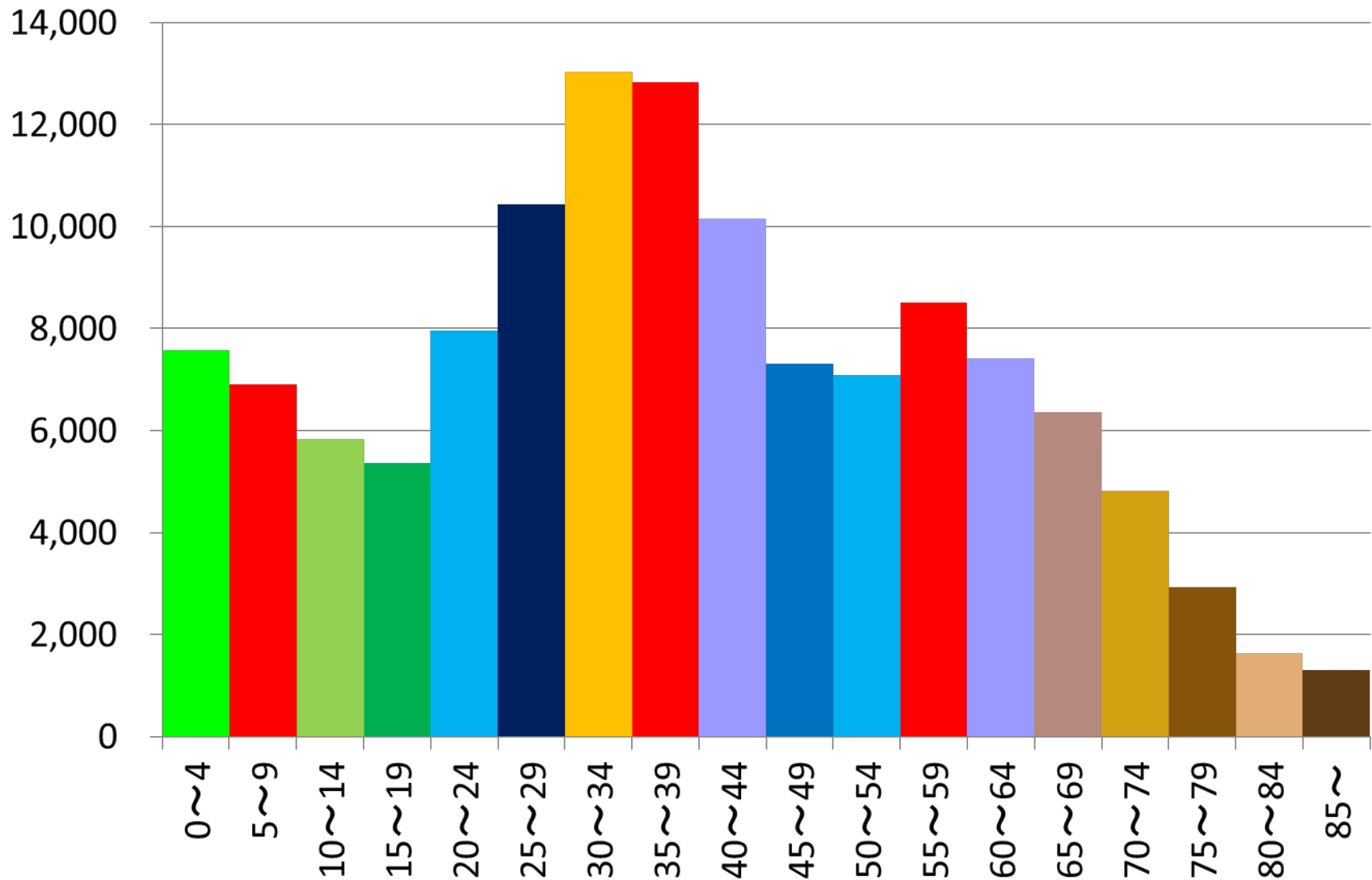
# 1995年 平成7年



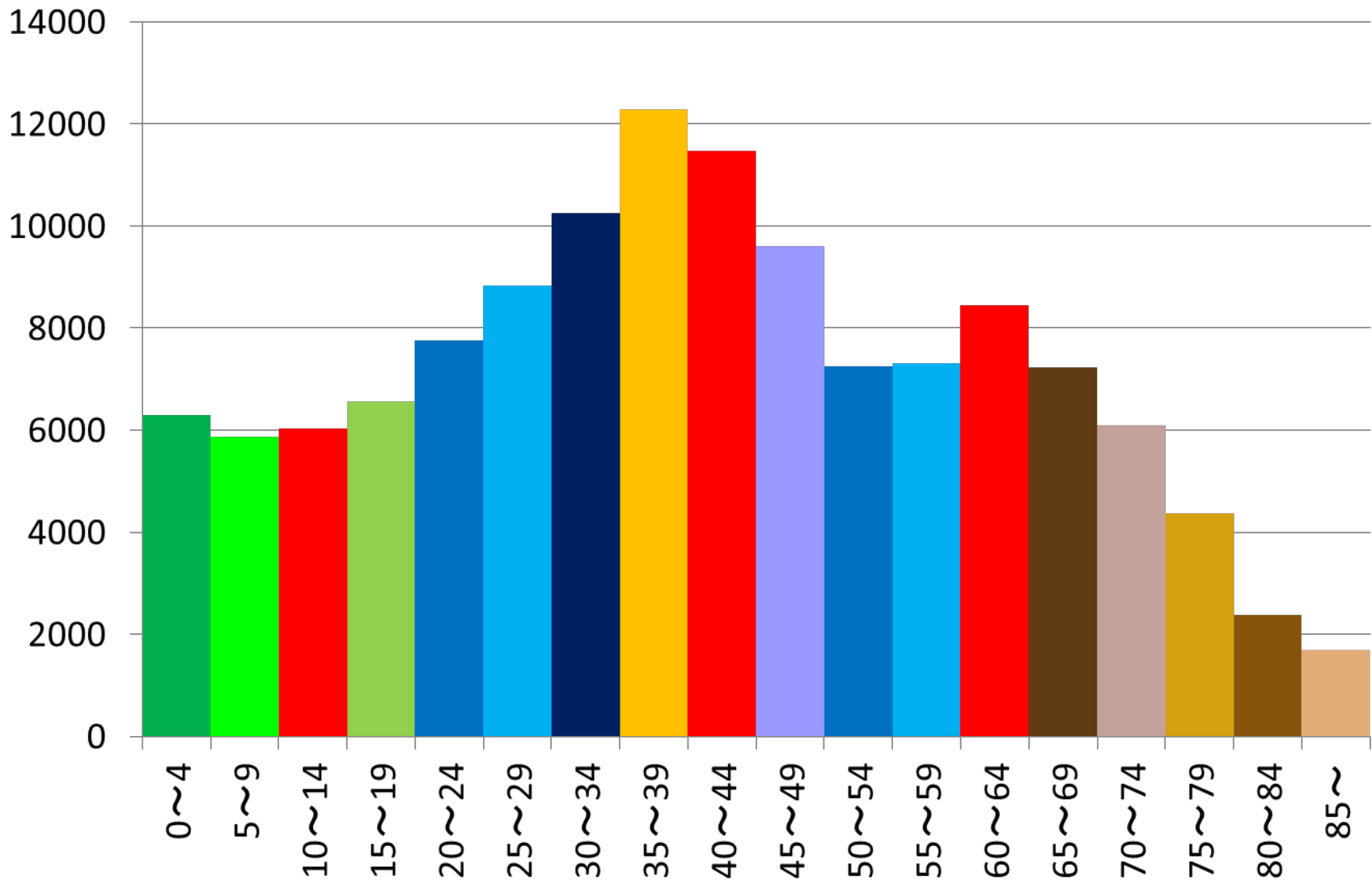
# 2000年 平成12年



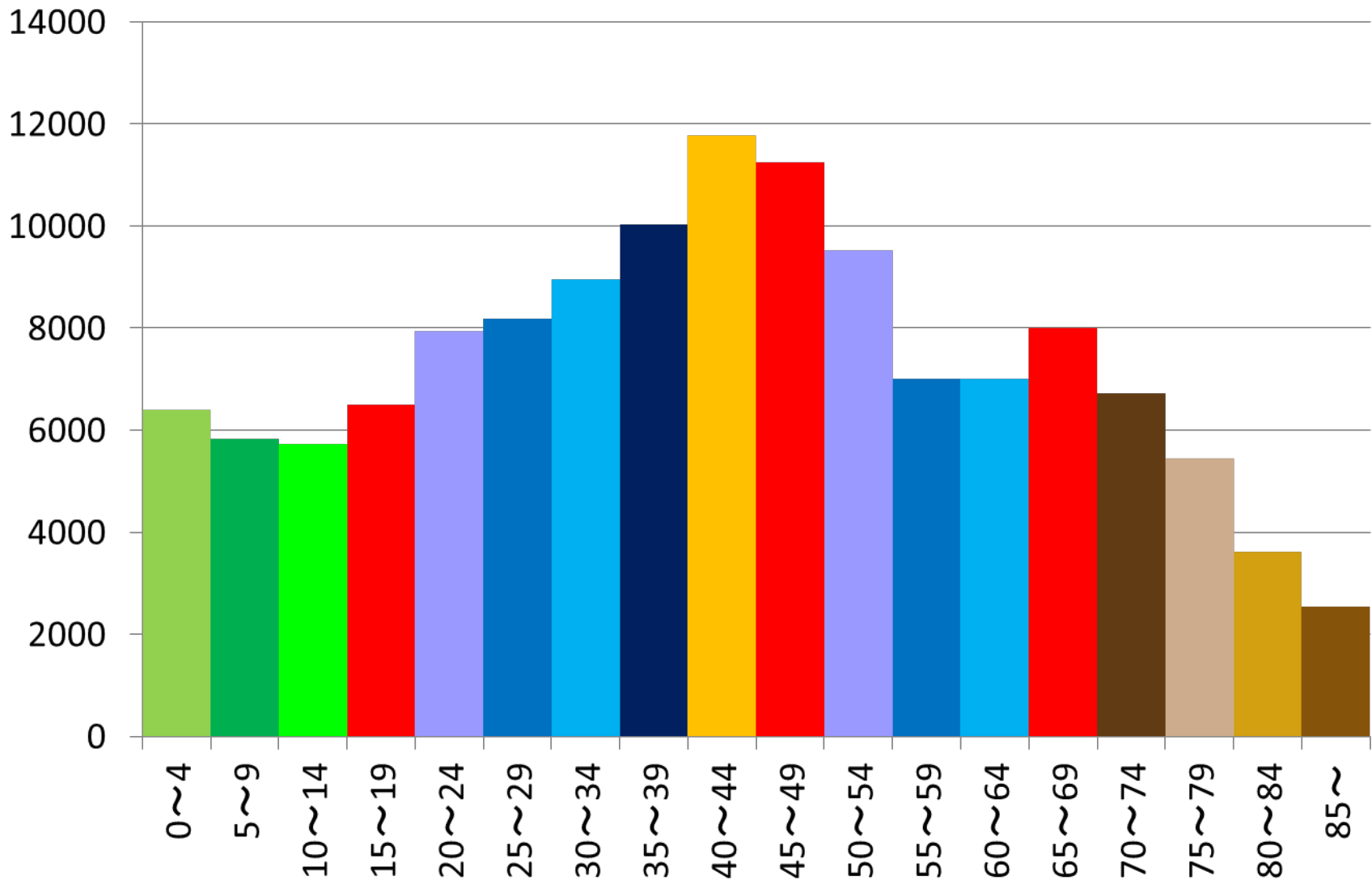
# 2005年 平成17年



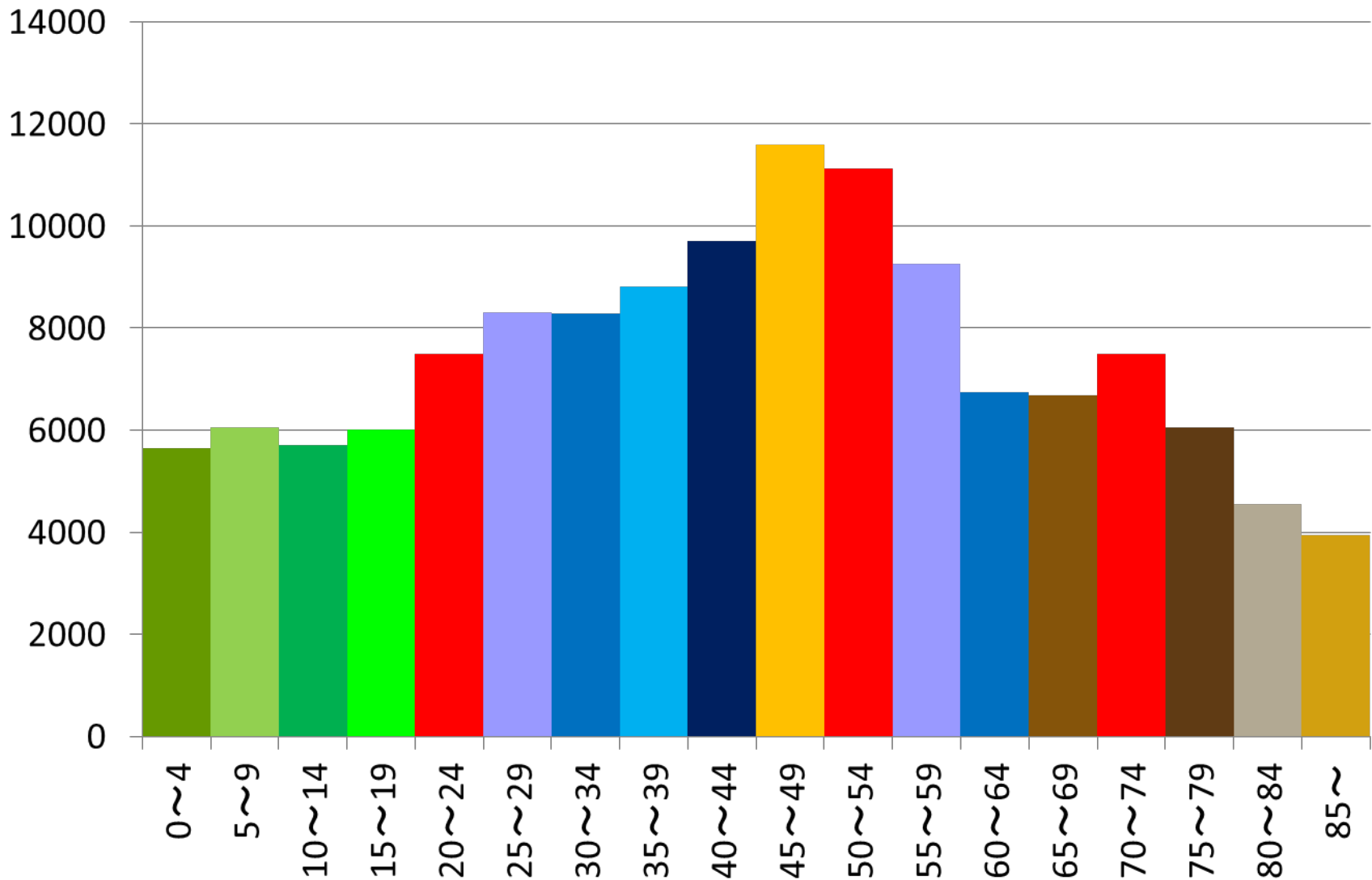
# 2010年 平成22年



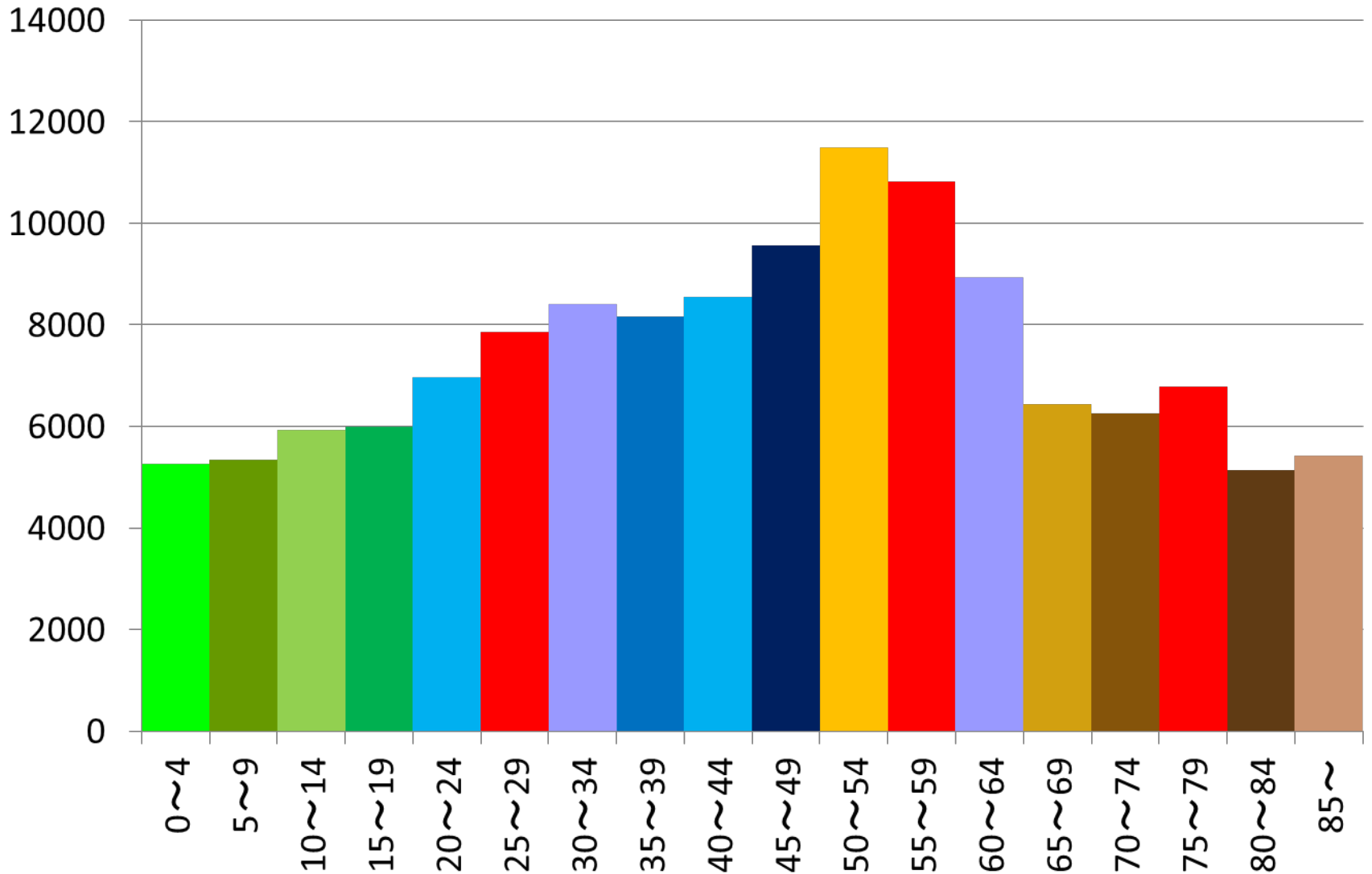
# 2015年 平成27年



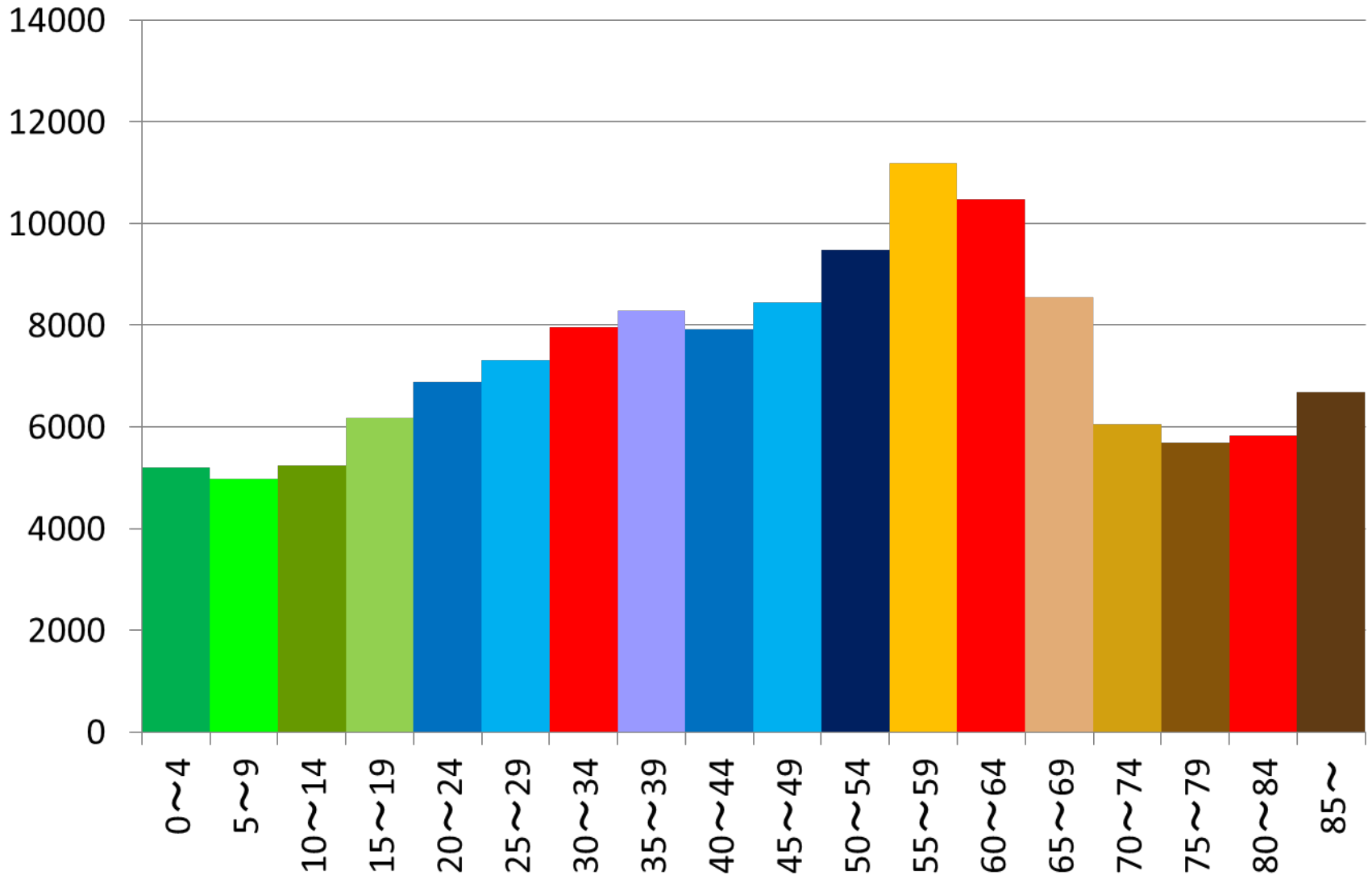
# 2020年 平成32年



# 2025年 平成37年

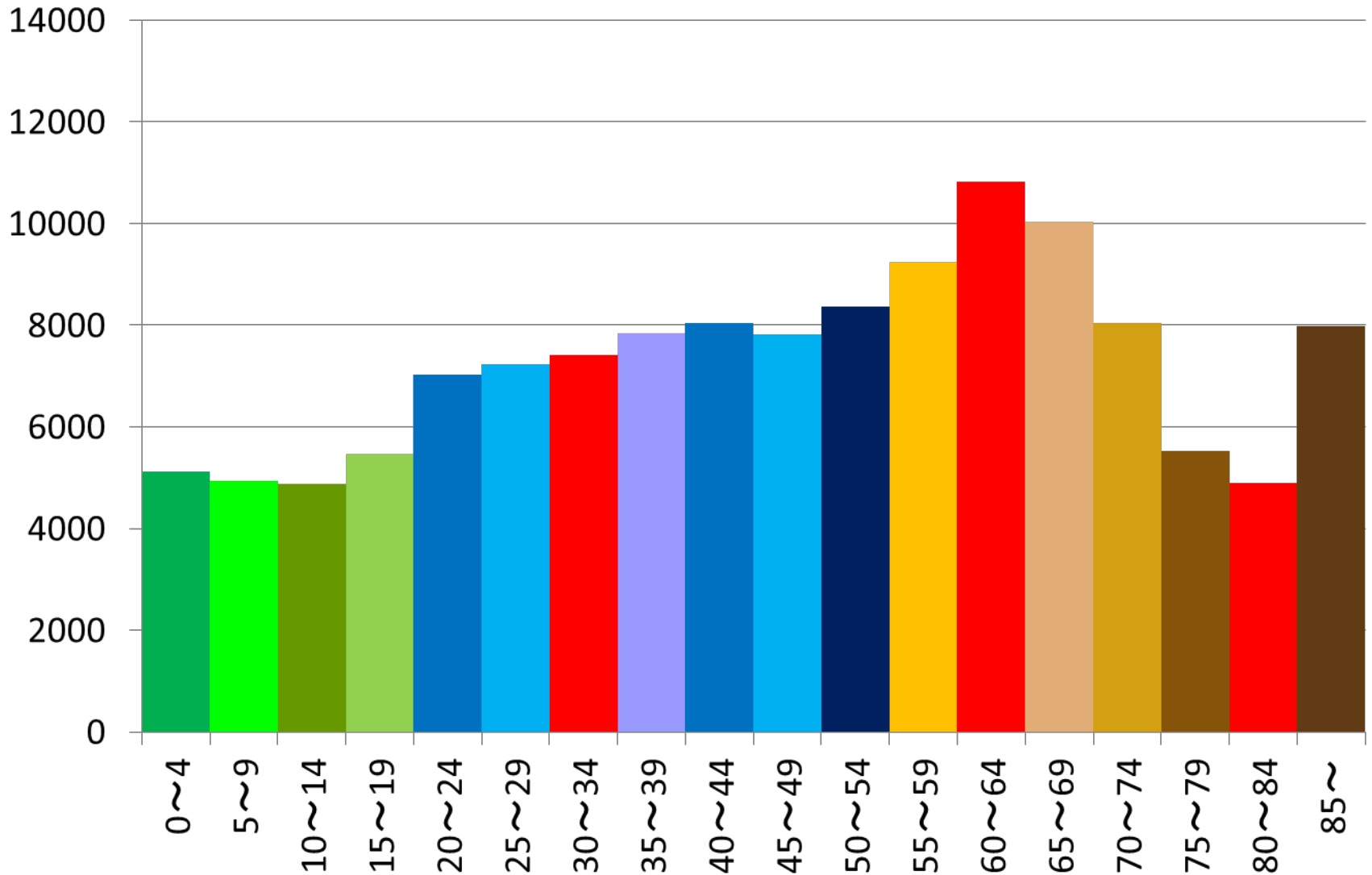


# 2030年 平成42年

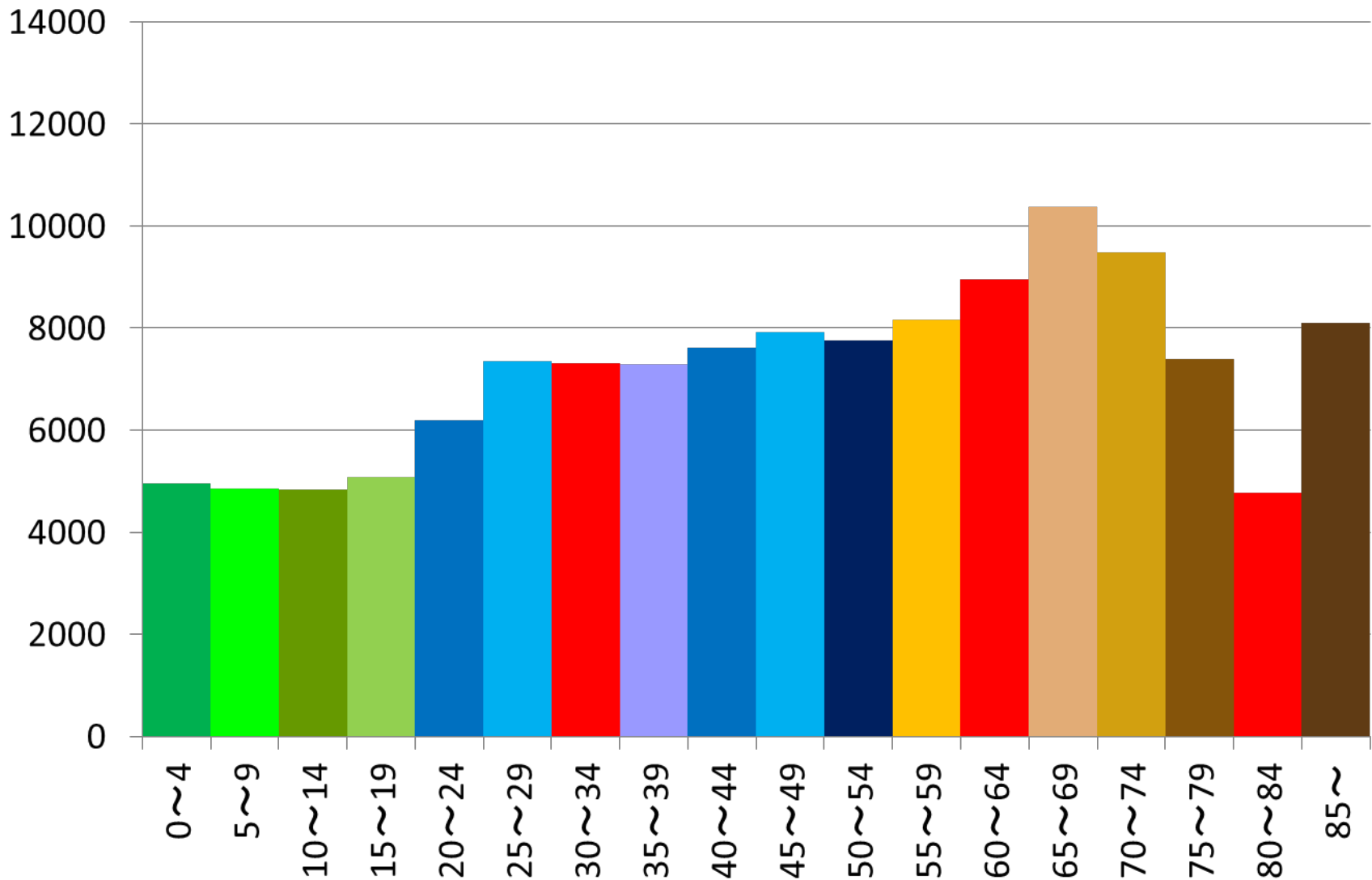




# 2035年 平成47年



# 2040年 平成52年



# 見えてきたこと

- 少子化の問題は他市ほど深刻ではない。むしろ子ども人口の伸びが沈静化するなかで、質に着目した子育て政策と定住対策を打ち、所得のある市民を失わないことが課題。
- 朝霞市の高齢者は着実に増えるが、とりわけ今のアラフォーが高齢者になると激増。20年遅れの団塊世代問題として2035年頃表れてくる。
- 市民の健康予防、介護施策に力点をおくことが避けられない